

相手の評価の理由に対する抵抗的な反応

—中国語の「我觉得(wojuede 私が思う)」の働き—

張 麗(関西学院大学大学院生)

1. はじめに

私たちは、普段ある人やものについて話す時に、その人やものに対する評価を産出する場合がある。その際、産出された評価に対して、聞き手の誰かが同意または不同意を行うことが考えられる。Pomerantz(1984)は、このような評価に対しては同意・不同意の産出が次の位置で期待されるとし、同意・不同意の産出に関するそれぞれの特徴を明らかにしている。他方、Pomerantz(1984)が分析した同意・不同意発話は、直前の話し手の評価に対するものであるが、実際の会話においては、話し手がある出来事を語りその出来事に対する評価を産出した場合、その後に来る聞き手の同意・不同意は、話し手の評価に対してだけでなく、評価を含む話全体に対して行われる場合もある。そのような場合、聞き手は評価に対応するだけでなく、評価に先行する連鎖を踏まえて話し手がなぜそのような評価を産出したのかを理解し、それに応じてどのように反応するのかという課題にも直面していると考えられる。だが、そのような前の連鎖内容を踏まえて産出された評価に対する聞き手の反応がどのような特徴を持つのかに関する研究はあまりなされていない。そこで、本研究では、中国語のデータを用いて、話し手の評価に先行する連鎖内容を踏まえて産出された聞き手の評価と応答に焦点を当て分析を行い、聞き手の反応の特徴を明らかにすることを目的とする。

上記の目的を達成するため、本稿では、なぜ話し手がそのような評価をしたかという、前の連鎖内容及び評価の発話から読み取れる評価の理由に対して、聞き手が抵抗的な反応を行うという現象に着目する。まず評価が産出される前のやり取りを記述し、そして、話し手の評価がどのように産出されているのかを分析した上で、聞き手による評価に対する抵抗的な反応がどのように行われるかを、会話分析の方法論を用いて明らかにしたい。

2. データ

本研究で用いるデータは、筆者が収録した同じ研究科に属する中国人友人同士の雑談(計約120分)及び、Talk bank プロジェクト(MacWhinney2007)によって収集されたアメリカ・カナダに在住の中国人知人同士の電話会話である。

3. 分析

分析の結果、本稿が着目するデータにおいて、評価は応答を追求するためになされる複数の「質問-応答」の連鎖の直後に生じ、その評価に対して、聞き手はまず話し手が評価を行う際に依拠した基準を受け入れないことを示した後に、自身の個人的な評価を提示するという仕方で行なっていることが分かった。さらに、抵抗的な反応を行う際に「我觉得(wojuede 私が思う)」という表現が、複数の事例に共通して用いられていた。以下では、まず、複数の「質問-応答」連鎖の直後の評価及びその反応の特徴について、二つの事例の分析を通して述べた上で、そのような反応を行う際に用いられる「我觉得(wojuede 私が思う)」の働きについて述べていく。(断片中「→」が話し手の評価、「↪」が聞き手の反応である。)

3.1 複数の「質問-応答」連鎖の直後の評価及びその反応

まず、断片1を見てみよう。断片1は、日本の某大学の同じ研究科に属している友人同士SとWの雑談である。この断片の前では、Wは修士論文のデータを収録するために、夏休みに中国の出身高校に帰って、大学入学試験のために日本語を勉強している高校生に調査を行うとSに報告している。大学入学試験の日本語試験について知らないSがそれを聞き、日本語を勉強している生徒の数や日本語授業のスケジュールなどをWに尋ねた後、01行目で日本語試験が難しいかどうかと質問をし始めた。

¹ 中国の大学入学試験に第二言語という試験科目があり、第二言語試験の言語として英語、日本語、韓国語、フランス語など六つの選択肢から選べる。今まで英語を選べる人が圧倒的に多いが、最近日本語を選択する学生が増えている。

定的なニュアンスを持つように聞こえる。つまり、S は、質問をやり直す際に提示した日本語能力試験という判断基準に基づき、大学入学試験の日本語試験が簡単であるという評価を産出したと理解可能である。

18 行目 S のやや否定的な評価に対して、19 行目で W は、S が評価を産出する途中で発話を開始し、S の発話に割り込んでいる。更に、18 行目の前半の発話から S が「そんなにかんたん」という評価を行うことが予測できる時点、すなわち、肝心の評価表現「かんたん」が産出されている途中で、「↑ 其实(実は)」と音調を上げて発話を開始し、S の評価の産出をブロックしようとしている。そして、「↑ 其实(.) Tch 其实<怎么<怎么评(.)>评判呢(↑ 実は(.)) Tch 実はおどろどろ判定するだろう)」と、大学入学試験の日本語試験は一言では評価できないことを述べ、S の評価が不適切であることを示すことによって、S の「N 3N4ぐらいのレベルなら簡単である」という評価の理由を受け入れることに抵抗を示している。さらに、W は続く 20 行目で「就是说你说难吧,我觉得一点也都不难。(難しいかといえば、私は全然難しくないと思う)」と、「我觉得 (wo juede 私が思う)」を用いて自分の評価を個人的なものとして産出している。この W の「全然難しくない」は、S の「N3N4ぐらいのレベルで簡単」という評価に同意する一方で、試験に関する別の何らかの側面に対しては不同意であることを投射しているように聞こえる。

次の断片 2 は、アメリカに留学中の友人同士の電話会話である。A はペンシルバニア大学に、B はミネソタ大学に在籍している。ホームページの作り方についての話が終わった後、B は 01 行目で A が在籍している大学ペンダインについて質問し始めた。

断片 2 [Call friend 5784]

<p>01 B 你 的:(.) 嘎(.) 宾大 怎-(.) (ben-) (.) 宾大 怎么样?= 2SG の PRT BINDA BINDA どう あなたの:(.) 嘎(.) ビンダイはど-(.) (ben-) (.) ビンダイはどう 02 =是 不 是 很-(.) 学校(.) 是 不 是 很 漂亮. be NEG be とても 学校 be NEG be とても 綺麗 学校(.) とてもきれいなじゃない。 03 A 学校: 相当 漂亮. 学校 かなり 綺麗 学校: かなりきれいな。 04 B 很 大(.) 是 吗?= とても 大きい be Q とても大きい(.) でしょう 05 A =呃:: 不 是 特别 大(.) 跟:: [那个: hmm NEG be めっちゃ 広い like あれ =ええと:: めっちゃ大きいはない。(.) あれ:: [と: 06 B [宾大 有 多少人 吧. BINDA いる なん 人 PRT [ビンダイに何人いるか] 07 A .h 宾大 多少 人::: (.) 这个(.) 怎么 着 也得 有: 两万 吧. BINDA なん 人 これ 少なくとも must いる 二万 PRT .h ビンダイ何人いる::: (.) これ-少なくとも二万人いるだ。 08 A .h 至 少 应该 两万 吧. 少なくとも はず 二万 PRT .h 少なくとも二万人いるはずだ。 09 B [太 少 太 少*= too 少ない too 少ない 10 =¥他 妈 明 大:: 我操他妈 太 大 了. ¥ fuck MINGDA FUCK too 大きい ASP [少なすぎ、少なすぎ=¥ビンダイ:: 大きすぎ. ¥</p>	<p>11 B .h [就 是 Twin-(.) .h Twin cities 是-(.) 就 是 Minneapolis 的 just be be just be の 12 (Saint Paul) 的 campus 我 操 .h 就 他妈的 四五 万人 我 操. の fuck just fuck 四五 万人 fuck .h [Twin-(.) .h Twin cities 是-(.) Minneapolis の (Saint Paul) の campus は 四五万人いる。 13 A [是 嘛. be PRT [そう。 14 A 四 五 万 人. 四 五 万 人. 四 五 万 人. 15 B 四 [到 五 万. 四 to 五 万. 四万から五万人。 ⇒16 A [哎 我 不 太 >清 楚<.h 这 个 我 不 太 清 楚 PRT I NEG too わかる これ I NEG too わかる [え私よく分からない。(.) これは私よく分からない。 ⇒17 我-(.) 反 正: [我 觉 得 宾 大 是 够 大 的 了. I anyway I 思 う BINDA be 十分 大きい PRT ASP 私-(.) どのみち: [ビンダイは十分大きいと思う。 18 B [.h 它 说 是 在- it say be in [.h It said that it is in- 19 A 宾 大 因 为: (.) 它 也 是 个 (.) 大 学 校. BINDA から it も be CL 大きい 学校 ビンダイも(.) 大きな学校だから。</p>
--	---

この断片で焦点を当てるのは、09 行目の B の評価と、16,17 行目のその評価に対する A の反応である。

04 行目で、B は「とても大きい(.) でしょう」と、A の大学がとても大きいという自身の理解を確認する質問を行なっている。その質問に対して、A は 05 行目の冒頭で「ええと:::」と言い淀んで、質問への応答を遅延させ、B の質問がすぐ答えられないものであることを示している。それに続けて、「めっちゃ大きいはない」と、程度副詞「很(とても)」を「特別(めっちゃ)」にアップグレードして否定的な応答を行なった後、「跟:: 那个:(あれ:::と)」と発し、別の何かを参照対象として挙げようとしているように聞こえる。だが、A のその発話の途中で、B は 06 行目で発話を開始し、A の発話に割り込んで、05 行目の「ええと::: めっちゃ大きいはない」という応答に対して、「ビンダイに何人いるか」と、A に大学の在学人数を尋ねている。このように人数を聞くことによって、大学の「大きさ」の判断基準を A に提示していると考えられる。また、その疑問文に添えられた文末助詞「吧(ba)」によって、「どりあえず何人いるかを教えて」という相手の応答を催促しているように聞こえる。07,08 行目で A が「少なくとも 2 万人がゐるはず」と最低限の人数を答えると、B は「少なすぎ、少なすぎ」と否定的な評価を行ない、更に間髪を入れず、自分の学校であるミンダイには、4,5 万人いると述べて、「少なすぎ」と言える根拠を提示している(10,11,12 行目)。つまり、B が提示した在学人数という判断の基準に基づき、A の大学ビンダイは小さいと評価していると考えられる。

提示されたミンダイに 4,5 万人がゐるという情報に対して、A は 14 行目で「4,5 万人」とミンダイの在学人数を繰り返す。B は、この繰り返しの発話を、A が B にミンダイに 4,5 万人がゐるということについて確認を要求していると理解し、15 行目で「4 万から 5 万」と確認を与えているが、16 行目の A の発話と重なっている。15 行目の「四到五万(4 万から 5 万)」の「到(から)」という冒頭からオーバーラップし始めることから、16 行目 A の発話は 14 行目からの続きとして産出されているように聞こえる。そのため、何をわからないと A が言っている

³ 参加者の発話に従ってトランスクリプトにペンシルバニア大学をビンダイ、ミネソタ大学をミンダイとする。

のかについて、直前でBが提示したミンダイには4,5万人がいるという情報についてよく分からないと言っているものとして理解可能である。ミンダイには4,5万人がいるというミンダイが小さいと言える根拠に対して、自分は分からないということを示すことによって、AはBが提示した評価の基準を放置して自分の大学が小さいという評価に乗らないことに志向していると考えられる。続く17行目で「私(.)どのみち:ミンダイは十分大きいと思う。」とA自身の主観的な評価を産出している。

ここまで見てきた二つの事例を整理すると、両事例とも、最初の質問は、話し手が聞き手に評価を尋ねるもので(断片1は「大学入学試験の日本語試験が難しい?」、断片2は「ミンダイとても大きいでしょう」という質問)、聞き手の明確な回答を促すため、話し手が質問をし直す際に、やり直した質問において何らかの基準も提示している。そうして得られた回答に対し、話し手は自身が提示した基準に基づき、評価を産出している。聞き手は、話し手がそういう基準に基づいて評価を産出していることを理解した上で、話し手の評価の基準を受け入れない、もしくは放置することを示した後、自身の評価を個人的なものとして提示することによって、話し手の評価の基準に抵抗的な反応を行っていると考えられる。

3.2 抵抗的な反応に用いられる「我觉得 (wojuede 私が思う)」の働き

中国語の日常会話において、第一評価と第二評価を行う際に、自分の感情・意見を述べることを示す「我觉得 (wojuede 私が思う)」が頻繁に用いられている。Endo(2010)によると、第一評価への不同意を表明する際に、ターンの冒頭で「我觉得 (wojuede 私が思う)」を置くことによって、これから産出する意見・評価が客観的なものではなく、参加者個人的なものであることを示すことができ、相手との衝突を和らげる機能をしていると述べている。だが、本研究では、これが評価への不同意ではなく、話し手の評価の基準を受け入れない、もしくは放置することを示した後という位置で、「我觉得 (wojuede 私が思う)」を用いることによって、自分なりの基準で評価することを示していると考えられる。また、3.1節で分析した二つの断片において、話し手の評価の基準を受け入れないことを示した後の位置で、評価対象に対してより知識を持ちそれを評価する権利を持つ側である聞き手が、「我觉得 (wojuede 私が思う)」を用いてこれからの評価を自分の個人的なものとして示すことが、その評価を行う理由をこの後に述べることを適切とするのではないかと考えられる。

4. まとめ

本研究では、中国語の雑談において、なぜ話し手がそのような評価をしたかという、評価に先行する連鎖の内容及び評価の発話から読み取れる評価の理由に対する聞き手の抵抗的な反応について分析してきた。その結果、聞き手は話し手がどのような判断基準に基づいて評価を行ったのかを理解した上で、話し手のその評価の基準を受け入れない、もしくは放置することを示した後、「我觉得 (wojuede 私が思う)」を用いて自分なりの基準で自分の個人的な評価を提示することによって、話し手の評価の基準に抵抗的な反応を行っていることが分かった。

これまで評価に対する研究では、第一評価に対する同意や不同意の応答の特徴に注目して研究なされてきたが、本研究では、評価が産出される前のやりとりから分析することで、聞き手は話し手がなぜそのような評価を産出したかを理解し上でその評価に応じていることを明らかにした。以上の分析結果は、これまであまり研究が進んでいない、中国語に対する多様な応答の仕方の一端を明らかにするのに寄与するものである。

5. 参考文献

- Endo, T. (2010) Epistemic stance marker as a disagreement preface: Wo juede 'I feel/think' in Mandarin conversation in response to assessments. 京都大学言語学研究, 29:43-76.
- Endo, T. (2013) Epistemic stance in Mandarin conversation: The positions and functions of wo juede (I feel/think). In Y.L. Pan and D.Z. Kadar *Chinese Discourse and Interaction: Theory and Practice* 12-34. Equinox.
- Hayashi, M. (2009). Marking a "noticing of departure" in talk: Eh-prefaced turns in Japanese conversation. *Journal of Pragmatics*, 41(10), 2100-2129.
- Pomerantz, A. (1984). Agreeing and disagreeing with assessments: Some features of preferred/dispreferred turn shapes. In J. M. Atkinson & J. Heritage (Eds.), *Structures of social action: Studies in conversation analysis* (pp. 57-101). Cambridge, UK: Cambridge University Press.